

## 中国の国有工業企業の企業金融(1978-2003) -- 固定資産投資を中心に

筑波大学大学院 洪 恩東

本稿では、1978年から2003年まで、企業の業績に影響する要因を、資金調達、資金の運用、運用の効果の三つの側面に分けてそれぞれ検討してきた。そこで、業績に影響する要因を、以下のようにまとめることができよう：

はじめに、第二節で国有経済の固定資産投資の資金源の内枠の時系列の変化を検討した。その資金源の中で、予算内投資が年々減少し、自己資金による固定資産投資の増加は目立っている。また、銀行貸出しの固定資産投資に占める割合は85年以降、比較的安定しており、(国有)銀行側からの貸出し比率も減っている。したがって、個別の国有企業に対してソフトな予算が存在するかもしれないが、国有経済の全体として、必ずしもそうであるとは思えない。

次の第三節で、国有工業企業は調達されてきた資金の一部を従業員の福祉面に運用することを分析した。国有工業企業で、実質総給与と実質生産高との間に互いに密接に連動させていて、総給与の業績を圧迫する可能性が薄い、と考えられる。そういう意味で、給与の「過剰分配」がなくて、調達してきた資金が「正常」に生産面に投入されると言える。

最後の四節で、国有工業企業の業績に影響できる要因を3つ取り上げた。従来の定説とは違って、企業の業績が景気循環にだけではなく、投資そのものに密接に関係していて、さらに、税金にも影響される、という結論に至った。つまり、1978年から2003年にかけて、中国の国有工業企業の業績は、企業のガバナンスだけではなく、以上の三つの要因にも左右されている、と十分に考えられる。このことは中国の国有企業改革を考える際に、きわめて重要な示唆を与えるものと言えよう。

ただし、本稿の分析期間の中に、データの欠落の時期はいくつかある。データ探しは非常に重要な課題で、また、業績の変動に占めるいくつの要因がそれぞれどのぐらいのウェートを占めるか、国有企業の企業金融の効率性などについて、今後の課題として残される。